



# 鶴嶺中学校だより

茅ヶ崎市立鶴嶺中学校  
学校だより No. 7  
令和2年 9月 8日  
校長 一星 光利

## ☆戦後75年の暑い夏に思う

7月21日（火）から7月31日（金）、8月17日（月）から28日（金）の間の暑い中の学校生活、本当にお疲れさまでした。7月中は雨や曇りの日が多くなんとか過ごせましたが、学校が始まった週の猛暑は想像以上でした。8月17日には静岡県浜松市で41.1℃の観測史上最高に並ぶ気温が記録された報道を聞くと、今後温暖化が進んでいくことが本当に心配になります。そんな中で、鶴嶺中学校の生徒の皆さんが学校生活で頑張っていたことは、大きな自信にしてほしいと思います。

保護者の皆様におかれましては、9月3日（木）の学年学級懇談会へのご参加ありがとうございました。放送によるご挨拶の中でお伝えしましたが、10月19日（月）の体育祭に関しては、内容を精選して午前中に実施予定です。また、保護者の方の参観につきましては、3年生の保護者の方とPTA役員さん（準備・受付・記録等）に限定させていただきます。全校の生徒数が多く、グラウンドが狭い本校の事情を考慮して判断をさせていただきました。何卒、よろしくお願いいたします。

さて、今年は戦後75年目の年になります。コロナウイルス関係の報道が多い夏でしたが、やはり夏は戦争のことを考えてしまいます。終戦の時に生まれた人が75歳、今の中学校3年生と同じ15歳だった人が90歳になっていると考えると、戦時中の生活体験がある人は年々少なくなっています。

今の中学生の皆さんは戦争や戦時中の生活体験の話を直接聞くこともあまりなくなりました。

私も戦後生まれの一人です。私の父親は子どものころ、東京大空襲にあい、兄弟の一人は亡くなったと聞いています。母親は山形で女学校に通っていたそうですが、勤労動員で東京に来て、軍需工場で風船爆弾の部品をつくられていたそうです。今は二人とも鬼籍に入ってしまったので、残念ながら詳しい話を聞くことはできません。

広島に投下された原子爆弾のことを伝える語り部の人たちもかなりの高齢になり、今ではお孫さんが語り部を引き継いでいるという話も耳にします。25年は四半世紀、50年は半世紀、75年はあまり聞き慣れませんが三四半世紀と呼ぶそうです。先ほど述べたように人間の寿命から考えていくと、75年という歳月は一世紀（100年）のくくりの中では、とても大きな区切りだと思えます。日本に生きる人間として戦争のことを知り、これからの日本はどうあるべきかを考えていく必要があると思います。

各地に資料館等もありますが、コロナウイルス感染対策も気になる今は戦争に関する小説を読むことが手っ取り早い方法かもしれません。暦の上では秋ですが、まだまだ残暑が厳しい暑い9月、もう一度戦争について考えて、次世代に伝えていく試みをしてみたいものです。

鶴嶺中学校では、7月の道徳の授業で「サダ子の折り鶴」を題材として平和を考える授業を行いました。生徒のみなさんがつくった折り鶴は、広島市に贈ります。



©DESIGNALIKIE

鶴嶺中学校の名前にもなっている“鶴”、これを折り紙でつくることは和の心です。さらに折り鶴は千羽鶴として願いを込めてつくられます。今から18年前、横浜の日産スタジアムで行われたFIFA 2002年ワールドカップの決勝の時にも、ボランティアがつくった折り鶴がスタジアムを舞ったことを思い出します。

さて、折り鶴の写真の色は白黒印刷ではまったく分からないと思いますが、青を選びました。その理由は、青い鳥には幸せのイメージがあるからです。そのイメージの源は、ベルギーの詩人であり劇作家でもあるモーリス・メーテルリンクが描いた童話「青い鳥」だと思えます。兄チルチルと妹ミチルが青い鳥を探すお話です。



最近は遠くに外出する気持ちになれないので、散歩をする機会が増えました。とはいえ、暑い夏の時期は自転車で出かけることが多いです。小出川や千の川をブラついていると鴨やコサギなどよく見かけます。先日は青い鳥を2種類見かけました。1つは多分、カワセミ。私は茅ヶ崎市内では初めて見ました。もう1つはアオサギです。こちらは白いコサギよりも大きいので目立ちます。2匹いて、丁度1匹が飛び立っていました。このアオサギ、2年前に前任校の正門前の池の魚を狙って舞い降りた時、生徒たちは皆「鶴がいる〜!」と叫んでいました。海沿いの学校で川からは距離があるはずなのに、びっくりしました。実は今から20数年前、私は家族から「今日“コウノトリ”が来たんだよ!」と言われたことがありました。「日本に野生のコウノトリがいるはずないよ!」と心の中で呟きながら、うなづいてしまった記憶があります。

この鶴やコウノトリに間違えられた鳥こそ、アオサギ(実際には白とグレーに青味がかった色)です。このアオサギも集団で住んでコロニーをつくると、肥えた土地になるため幸せを呼ぶ鳥とされているそうです。また、古代エジプトではもともとフェニックスの由来となる鳥「ベヌウ」とされていて、神のように崇拜されていたようです。

豊かな自然に溢れている茅ヶ崎に住んでいることに幸せを感じながら、コロナ禍で生活制限が続く中ではありますが、青い鳥の幸せが鶴嶺中学校のみなさんに届くことを心から願っています。

まだまだ残暑は続きそうですが、例年よりも早く校庭の桜の葉も色づいて落ち葉となったり、トンボが飛んでいたりと少しずつ秋の気配が感じられます。先日、8月末に栗ご飯をつくりました。8月に栗の皮をむいたのは人生で初めてです。朝夕の涼しさとともに、景色や食べ物から秋の気配を感じたい季節です。

## ☆お知らせ

前回8月18日(火)付けの学校だよりで茅ヶ崎地区駅伝大会の日程を10月17日(土)とご案内しておりました。

**10月10日(土)の間違いでした。**訂正させていただきます。  
10月17日(土)は予備日となっております。よろしくお願いたします。

また、茅ヶ崎市では8月は他校との練習試合については自粛しておりました。9月以降については、茅ヶ崎地区内のできるだけ近隣の学校とで行うこと、最大でも3校までで行うことで三密対策をしながら実施可能となっています。ただし、保護者の方の応援に関しましては当面はご遠慮いただいております。ご協力をお願いいたします。9月末以降には秋季大会(新人戦)も控えております。今のところ、三密対策をした上で、保護者の方の応援はなしで実施する計画でいます。



「愛があふれるI組の作品」